ちょっと名大史

⑦愛知県立医学専門学校跡

前号（連載第６回）でも紹介しましたように「愛知県病院・医学講習場（公立医学所）」は1873年５月に西本願寺掛所（別院）で復興しましたが、約４年後の1877年７月に、当時の名古屋町域の西端を流れていた堀川の東岸、天王崎町にあった旧名古屋藩士千賀家の屋敷跡地（現中区栄一丁目）に移転しました。前の西本願寺も当時の名古屋の南端にあたっており、最初の名古屋城正門の真向かいにあった時と比べ、不便な位置に移されたことになります。これは当時の病院に対する忌避意識、すなわち「伝染病がうつるのではないか」という一般人の恐怖感・忌避感に押されて、名古屋の町のはずれに建てられたと思われます。

しかし、この移転によってはじめて、新築の医療と医療教育専門の専門施設が建てられました（それまでは既存の建物を修築して利用していました）。約五千七百坪の敷地の正面に病院診療棟１棟、北に医学校舎としてコの字形の教場棟１棟と塾舎４棟、その南に翼状の病棟３棟が並ぶ、当時としては立派な疑似洋風建築でした。

移転後はじめの約７ヶ月間は、学校は休講措置をとっていましたが、翌1878年２月に学校の新規則が制定されたのをうけ、再び開校されました。そして同年４月公立医学校と改称、それまでは病院の付属施設でしたが、ここにおいて独立した機関となりました。さらに1879年にはそれまでの中等教育機関から高等教育機関である「専門学校」に格上げされ、1903年３月には愛知県立医学専門学校と改称されました。そして1914年３月に現名古屋大学医学部鶴舞キャンパスに移転するまでの約37年間、この地で医療教育と医療活動を続けました。

▲現在の景観

▲当時の写真

名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物に関する情報をお持ちでしたら、大学史資料室（052-789-2046）へご連絡下さい。

古紙配合率100%再生紙を使用